

## C V 22 オスプレイの横田基地配備計画発表に抗議し、撤回を求める（談話）

2018年4月4日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

在日米軍は3日、米空軍の特殊作戦用軍用機C V 22 オスプレイを今年夏頃までに東京・横田基地に5機配備し、今後数年間で最終的に10機と450人の人員を配備すると発表しました。すでに4日午前には、横浜市の米軍施設に陸揚げされ、一時立ち寄るといふことで、今週の後半に横田基地に移されることが狙われています。

オスプレイは、航空法で義務付けられているエンジン停止時のオートローテーション機能の不備などの問題を抱える、世界に知られた構造的欠陥機です。そのような欠陥機を首都の住宅密集地に隣接する横田基地に配備し、夜間や低空の訓練など特殊作戦の出撃拠点とすることは断じて認められません。配備計画の発表に抗議し、計画の撤回を強く求めます。

在日米軍は当初、2017年後半から配備するとしていた計画を2019年10月に延期するとしていましたが、今回また一方的に変更しました。また、飛来直前に通告するような主権侵害的行為は許されません。

オスプレイは、開発段階から世界各地で重大事故を繰り返し、これまで乗員42人が死亡しています。沖縄の普天間基地に配備されているMV 22 オスプレイも2015年12月に名護市安部の海岸に墜落、大破した事故やオーストラリアでの墜落事故などを起こし、その後も不時着などの事故を繰り返しています。

さらに、2017年2月から千葉県木更津市の整備工場で定期点検を受けているオスプレイは部品不具合などにより、予定期間の倍以上たった現在も飛行できない深刻な事態にあります。

横田に配備が狙われるC V 22 オスプレイはMV 22 と比べて、情報収集など特殊作戦機能を備えているためさらに事故率が高くなるといわれています。C V 22 の運用はMV 22 配備時の日米合意によるとされていますが、この合意は住宅地上空飛行などは「可能な限り避ける」など抜け穴だらけであり、関東一円をはじめ全国に重大な脅威をもたらすことは明らかです。

今回の配備計画はまた、北朝鮮問題の平和的解決に向けた努力がすすめられている北東アジアの情勢に悪影響を及ぼす点でも許されないものです。今回の計画発表について日本政府が「日本の防衛及びアジア太平洋地域の安定に資する」としていることは認められません。

配備計画の撤回をもとめ、地元住民のみなさんをはじめ広範な国民運動を広げる決意を表明します。

以上